トラフグ資源管理検討会議
ブロック会議資料

トラフグ（日本海・東シナ海・瀬戸内海系群）

新たな資源管理の検討プロセスについて

（令和4年度資源評価結果公表後）

令和5年2月

水産庁

ＴＡＣ管理に向けた今後のスケジュール
「トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群」

新たな資源管理の検討プロセス

資源管理手法検討部会の参考人等は決定済（令和5年1月）

①	資源評価結果の公表	• 令和４（2022）年12月23日公表 • 結果説明会　令和５年１月25日
②	資源管理手法検討部会	• 令和５（2023）年〇月の開催に向け調整中 • 参考人等からの意見や論点を整理
③	ステークホルダー会合 （資源管理方針に関する検討会）	• ①や②で受けた科学的な検討内容を回答。 • ②で整理された意見や論点を踏まえ、具体的な管理について議論 • 必要に応じ複数回開催し、管理の方向性をとりまとめ
④	資源管理基本方針の策定	• ③でとりまとめられた内容を基に、資源管理基本方針案を作成 • パブリック・コメントを実施した後、水産政策審議会資源管理分科会への諮問・答申を経て決定
⑤	管理の開始	

ＴＡＣ魚種拡大に係る検討の進捗状況（令和５年１月時点）

水産資源	資源管理手法検討部会 の 参考人等の推薦期限	資源評価結果 の公表	資源管理手法検討部会	資源管理方針に関する検討会 （ステークホルダー会合）
カタクチイワシ対馬暖流系群 ウルメイワシ対馬暖流系群	令和3年6月30日	令和3年9月30日	令和3年12月14日	第1回：令和4年3月3日 第2回：令和5年2月見込み
カタクチイワシ太平洋系群 ウルメイワシ太平洋系群			令和3年11月29日	第1回：令和4年3月28日 第2回：今後開催
ヒラメ瀬戸内海系群	令和3年9月30日	令和3年12月24日	令和4年2月8日	今後開催
マダラ本州日本海系群 ソウハチ日本海南西部系群 ムシガレイ日本海南西部系群 ニギス日本海系群			令和4年2月25日	今後開催
マダラ本州太平洋系群 ヤナギムシガレイ太平洋北部系群 サメガレイ太平洋北部系群			令和4年3月17日	今後開催
マダイ瀬戸内海中・西部系群 マダイ日本海西部・東シナ海系群			令和4年4月21日	今後開催
ブリ	令和3年12月31日	令和4年1月28日	令和4年7月11日	今後開催
カタクチイワシ瀬戸内海系群 マルアジ日本海西・東シナ海系群 ムロアジ類（東シナ海） キンメダイ太平洋系群	令和4年6月30日	令和4年9月30日	〈カタクチイワシ瀬戸内海系群〉 令和4年11月21日 〈マルアジ・ムロアジ類・キンメダイ〉 令和4年12月20日	今後開催
マダラ北海道太平洋、北海道日本海 アカガレイ日本海系群 *ソウハチ北海道北部系群* *マガレイ北海道北部系群* サワラ瀬戸内海系群、東シナ海系群 イカナゴ瀬戸内海東部 マダイ瀬戸内海東部系群 ベニズワイガニ日本海系群 ヒラメ太平洋北部系群、日本海北・中部系群、日本海西部・東シナ海系群 トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群、伊勢・三河湾系群	令和4年9月30日	令和4年12月23日	今後開催 （水産資源毎に順次開催）	今後開催

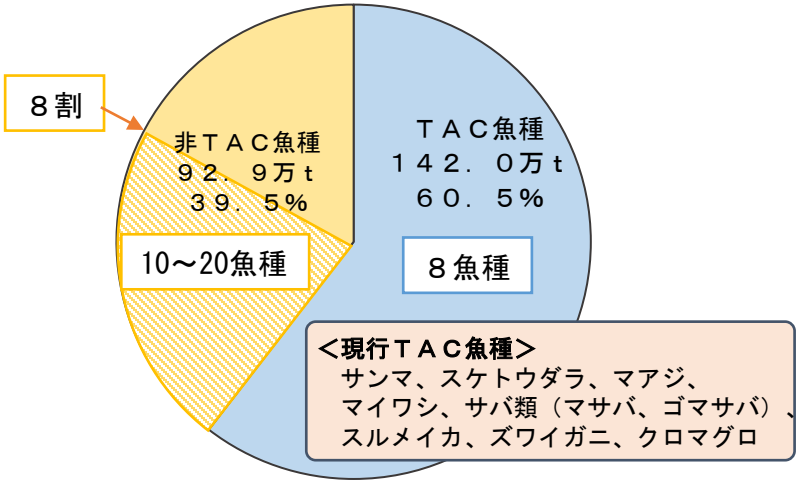
（参考）ＭＳＹベースの資源評価に基づくＴＡＣ管理の推進（ＴＡＣ魚種拡大①）

- ＴＡＣ魚種は、漁業種類別・海区別に準備が整ったものから順次拡大し、早期に漁獲量ベースで８割をＴＡＣ対象に取り込むこと（「水産政策の改革について」（平成30年６月１日農林水産業・地域の活力創造本部決定「農林水産業・地域の活力創造プラン（改訂）」）となっており、関係する漁業者の理解と協力を得た上で進めていく。
- このため、現行ＴＡＣ８魚種に加え、漁獲量の多いものを中心に、資源調査・評価の進捗を踏まえ、優先的にＭＳＹベースの資源評価に取組みＴＡＣ管理を行う資源を定めていく（令和５年度中を目途に、漁獲量ベースで８割がＴＡＣ管理に）。

≪漁業法等の一部を改正する等の法律案に対する附帯決議≫

漁獲可能量及び漁獲割当割合の設定等に当たっては、漁業者及び漁業者団体の意見を十分かつ丁寧に聴き、現場の実態を十分に反映するものとすること。

【参考１：漁獲量における現行ＴＡＣ魚種の割合】
(H28～H30平均)



※　データ元：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」
※　遠洋漁業で漁獲される魚類、国際的な枠組みで管理される魚類（かつお・まぐろ・かじき類）、さけ・ます類、貝類、藻類、うに類、海産ほ乳類は除く。

【参考２：漁獲量順位表(H28～H30平均)】

	魚種	漁獲量（t）	比率	累計
1	さば類★	520,743	22.2%	22.2%
2	まいわし★	466,844	19.9%	42.0%
3	かたくちいわし	142,704	6.1%	48.1%
4	すけとうだら★	130,335	5.5%	53.7%
5	まあじ★	129,398	5.5%	59.2%
6	さんま★	108,854	4.6%	63.8%
7	ぶり類	108,147	4.6%	68.4%
8	うるめいわし	74,885	3.2%	71.6%
9	するめいか★	60,195	2.6%	74.2%
10	しらす	54,849	2.3%	76.5%
11	まだら	46,308	2.0%	78.5%
12	かれい類	41,872	1.8%	80.2%
13	たこ類	36,097	1.5%	81.8%
14	ほっけ	22,946	1.0%	82.8%
15	むろあじ類	21,359	0.9%	83.7%
16	さわら類	17,059	0.7%	84.4%
17	いかなご	15,850	0.7%	85.1%
18	まだい	15,287	0.7%	85.7%
19	べにずわいがに	15,112	0.6%	86.4%
20	おきあみ類	14,651	0.6%	87.0%
21	にしん	9,795	0.4%	87.4%
22	ひらめ	6,886	0.3%	87.7%
23	すずき類	6,654	0.3%	88.0%
24	たちうお	6,648	0.3%	88.3%
25	さめ類	6,214	0.3%	88.5%
26	はたはた	6,146	0.3%	88.8%
27	ちだい・きだい	4,961	0.2%	89.0%
28	このしろ	4,882	0.2%	89.2%
29	ふぐ類	4,774	0.2%	89.4%
30	あかいか	4,181	0.2%	89.6%
31	ずわいがに★	4,104	0.2%	89.8%
32	いさき	3,907	0.2%	89.9%
33	あなご類	3,506	0.1%	90.1%
34	くろだい・へだい	3,029	0.1%	90.2%
35	にぎす類	2,902	0.1%	90.3%

※現行ＴＡＣ魚種は黄色ハイライト・星印

（参考）ＭＳＹベースの資源評価に基づくＴＡＣ管理の推進（ＴＡＣ魚種拡大②）

- 漁獲量の多いものの中には、沿岸漁業、特に定置網漁業や底びき網漁業で多く漁獲されるものが含まれており、数量管理の導入に当たっては、想定外の大量来遊による漁獲の積み上がり等への対応や迅速な漁獲量の収集体制の整備などの課題の検討が必要となる。
- このため、新たなＴＡＣ管理対象候補資源については、現場の漁業者の意見を十分に聴き、必要な意見交換を行うこととし、専門家や漁業者も参加した「資源管理手法検討部会（仮称）」を水産政策審議会の下に設け、資源評価結果や水産庁が検討している内容について報告し、水産資源の特性及びその採捕の実態や漁業現場等の意見を踏まえて論点や意見の整理をする。
- 同部会での整理を踏まえ、「資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）」を開催する。

検討の進め方

- ＴＡＣ管理を検討する際には、ＭＳＹベースの資源評価に利用可能なデータの種類が揃い、資源評価体制が整っている資源を「第１陣」とする。また、ＭＳＹベースの資源評価に利用可能なデータの種類が少ない資源を「第２陣」とする。
- 下記の漁獲量の多いもののうち、ＭＳＹベースの資源評価が実施される見込みのものから、順次検討を開始する。この場合、漁業の実態を踏まえた実行可能性も考慮することとし、関係者との丁寧な意見交換を踏まえながら、ＴＡＣによる資源管理の開始を目指していく。

第１陣：ＭＳＹベースの資源評価に利用可能なデータの種類が揃い資源評価体制が整っている資源	第２陣：ＭＳＹベースの資源評価に利用可能なデータの種類が少ない資源
資源ごとに　①ＭＳＹベースの資源評価と管理目標と漁獲シナリオの提案 ②上記部会での整理も踏まえ、ステークホルダー会合での意見交換の実施（その際、適切な管理手法も併せて検討）	
令和２年度　特に資源評価体制が充実している資源から、可能なものについて、神戸チャートを公表 令和３年度　特に資源評価体制が充実している資源 令和４年度　上記以外の資源	令和３年度～令和４年度 ①　第１陣で先行的に検討を開始する資源に関連する資源や、限られた漁業種類において混獲ではなく主たる対象魚として漁獲されるもの ②　上記以外の資源
ＴＡＣによる資源管理の開始	
令和３年度～５年度	令和５年度

漁獲量の多いもののうち、ＭＳＹベースの資源評価が実施される見込みのもの（○内の数字は漁獲量の順位（平成28年～30年の平均漁獲量））

第１陣　③カタクチイワシ、⑦ブリ、⑧ウルメイワシ、⑪マダラ、⑫カレイ類（ソウハチ、ムシガレイ、ヤナギムシガレイ、サメガレイ、アカガレイ、マガレイ）、⑭ホッケ、⑯サワラ、⑱マダイ、㉒ヒラメ、㉙トラフグ、○キンメダイ

第２陣　⑮ムロアジ類、⑰イカナゴ、⑲ベニズワイガニ、㉟ニギス

注：トラフグは「ふぐ類」の一部、キンメダイは「その他の魚類」の一部として集計。